

# やすだ



議会だより

第176号

2024.2



## 体育初め

### 令和5年12月定例会

|                   |   |
|-------------------|---|
| 町長行政報告 .....      | 2 |
| 一般質問 1氏が問う .....  | 4 |
| 条例改正 .....        | 5 |
| 令和5年度補正予算ほか ..... | 5 |

|                |   |
|----------------|---|
| 議員視察研修報告 ..... | 7 |
|----------------|---|

12月13日開会。条例改正、令和5年度補正予算等、10議案を審議、1氏が一般質問を行い、15日に閉会した。

## 行政報告(概要)



黒岩町長

### 物価高騰に対応する 国の動向

11月2日の閣議決定において、物価高騰の影響を受けた生活者等を引き続き支援するための重点支援地域交付金が追加計上され、本町では、1人6千円分の「がんばるやすだ心援券」の追加配布と、住民税非課税世帯への7万円の追加給付を決定し、早急な対応を図る。

### 町営事業の 進捗状況

#### ◆ふるさと納税◆

11月末現在、1861件、寄附額は2541万円で、前年同期とほぼ同水準。

#### ◆安田のファンづくり事業◆

安田朗を通じて交流のある地域での物販やイベント参加等に積極的に取り組んでいる。

こうした取り組みを継続することにより、ふるさと納税の寄附や、町への誘客による消費行動の増加など、さまざまな波及効果に期待する。

#### ◆町営事業の状況◆

主要事業の推進について、安田簡易水道施設整備事業、町道東谷寺山線道路改良工事等をはじめとする各種の社会基盤整備事業や下島頭

首工機能保全工事、避難誘導灯更新工事などの早期実施に努めている。

町道東谷寺山線改良工事は、残工事分について国の補正予算を要望し、早期の完成に向け取り組み。

#### ◆地域公共交通◆

4月から11月までの「やすら号」の運行状況は、東

谷線が140便で593人、東島線が136便で765人。両路線とも、昨年同時期を上回る利用がある。

#### ◆移住・定住促進対策◆

移住相談会や県東部9市町村の連携による移住フェアに参加のほか、空き家バ



町道東谷寺山線

◆多目的交流センターなかもやま・集落活動センターの活動◆

「なかもやま山芋まつり」については、今年から「なかもやま山芋フェスタ」に名称を改め、4年ぶりの制限のない開催で、昨年を上回る約800人が来場、自然薯、地域の野菜などの即売など大好評だった。

「多目的交流センターなかもやま」は、高知大学、東京映画社、社会福祉協議会等の事業での活用に加え「日本遺産中芸ゆずロードミュージアム」が併設され、10月末で昨年を上回る延べ1897人の利用があった。

旧中山村役場の跡地活用については、当面はJAや中山支所の駐車場として利用し、今後、関係者や地域の意見を聞き、活用の検討をしていきたい。

中山地区の振興対策については、来年度から3カ年計画で国の制度を活用した振興プロジェクトに取り組む。中山地区の将来像につ

いて、地域住民や団体等から幅広く意見やアイデアを集約し、将来の目標や必要な施策を取りまとめた、中山地区振興ビジョンを策定したいと考えている。

#### ◆農業振興対策◆

9月の高知市での就農相談会や、11月の大阪での新農業人フェアに参加し、就農者確保に努めている。

また、高規格道路の整備とあわせた一体的な農地整備の推進やハウスのリース事業化など、担い手の育成確保を図るための研究を進めている。

### 開かれた

#### 町政運営

#### ◆対話と協働◆

町長室の開放、中山支所での執務では、休日や夜間の開催も行い、11月までで延べ22人の訪問があり、住民の方々からさまざまな意見をいただいている。また「町長への手紙」事業につい

ては、11月末までに11件の投稿があった。

地域住民懇話会は、11月末までに14カ所で実施し、160人が参加。

### 教育行政の状況

#### ◆学校教育◆

安田さく

ら園の運動会は、4年ぶりに園庭内で行われ、保護者等の声援を受けながら、この日に向けた練習の成果を見せることができた。

小学5年生が、地域学習の一環として取り組んでいる「もち米づくり」で



もち米づくり（安田小5年生）

は、自分たちで植えた苗を鎌で収穫し、12月に食生活改善推進協議会の指導のもと、郷土料理づくり体験と試食会を行い、食育学習を深めた。

中学校では、生徒の学習に向き合う姿を見ていたため、参観週間を実施。期間中に校内学習発表会の

日を設け、各学年より総合学習での学びの発表を行った。

本町で開催された、高新中学駅伝競走大会の予選を兼ねた安芸地区中学駅伝大会では、男子は5年ぶり、女子は8年ぶりに入賞し、本大会への出場権を獲得した。これは、4月から行っている放課後全校ランニングによる体力づくりの成果が実ったものだと考えている。

安田っ子体験事業は、小学2年生から中学生および一般の方を対象にオーケストラの演奏会を開催し、音楽鑑賞だけでなく、生演奏による校歌の合唱や指揮者体験なども行った。

県内の優れた教育活動を実践する小中学校をたたえる「坂本教育賞」の令和5年度優秀賞を安田中学校が受賞した。教科間連携チームにより、教員同士が相互に学び合い助け合う体制が構築され、チーム学校等の取り組みが高く評価された

ものである。

#### ◆社会教育◆

生涯いきいき学習講座を4回開催、延べ425人が参加した。最終回の元プロ野球選手藤川球児氏の講演前には、小学5・6年生を対象にキャッチボール教室を開催していただいた。

寧浦全国色紙展は、今年、第30回の記念開催となり、昨年より27点多い346点の出品があり、好評を博した。

安田まちなみ交流館・和では、10月29日で終了の「龍馬の志を継いだ男 坂本直寛く生誕170年」展には、延べ513人が観覧。現在、町制施行100周年記念事業の一環として進めている町史編さん事業の成果展「やすだのお祭り」地域に伝わる信仰」展を来年の3月10日まで開催。

4年ぶりの開催となった安田地区町民運動会は、競技種目、参加者や人数等を工夫しながら開催された。

# 一般質問

ことが知りたい

Q

町営住宅等の今後の管理運営にどう取り組む

A

多様な地域ニーズに対応できるよう適正な管理運営に努めていく



内川議員

**問** 本町の町営住宅は、昭和54年度から平成27年度にかけて25団地、125戸（うち104戸入居）が建築されている。公営住宅法では、住宅の耐用年限は、耐火構造70年、準耐火45年、木造30年とされ、建て替え要件の一つに「耐用年限の2分の1を経過していること」とうたわれている。

本町に当てはめると、4つの団地（東島、上代、西

ノ戸、松尾）が簡易耐火構造で昭和54年度から56年度までに建築されたもので、耐用年限45年に対し40年余りが経過している。

すでに本町では公営住宅等の長寿命化計画を立て、計画的な管理、修繕による効率的で円滑的な更新を図ってきているが、4つの団地以外にも経年劣化が進んだ団地もあり、修繕費用等も直近5年間の平均で年4百万円を超えている。

今後、町営住宅等の適正な管理運営を行っていくため、現状の課題を整理した上でどのように取り組んでいくか。



黒岩町長

答

現在、管理する町営住宅は、25団地、125戸あり、昭和54年度建設の東島団地が最も古く、建設後43年が経過している。建て替え要件の耐用年数の2分の1を超える団地は9団地、43戸が該当している。

これまで、入居者の減少及び老朽化した裏田団地を解体し、平成27年度建設の桜坂団地は、3階建ての1階部分を低額所得者向け、2階、3階は地域優良賃貸住宅として整備を行ってきた。

今後は、従来の町営住宅に加え、桜坂団地のような子育て世帯等の確保や企業向けの住宅等、本町の実情に沿った住宅整備を実施し、移住・定住施策にもつなげていきたいと考えている。



町営住宅桜坂団地

一方、住宅の管理面においては、11月末現在、20戸の空き室があり、今後は需要と供給のバランスも図っていく必要がある。

令和10年度には、正弘地

区の県営住宅コーポニュー中山も町営住宅として管理していくことを踏まえ、多様な地域ニーズに対応できるよう適正な管理運営に努めていく。

条例改正

職員の期末手当は0・05カ月分引き上げ、年間支給月数を2・45カ月分とするもの。

◆職員の給与に関する条例の一部改正◆

◆一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正◆

◆第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正◆

◆

◆町長等の給与等に関する条例の一部改正◆

◆議会議員の議員報酬等に関する条例の一部改正◆

内容

人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定状況を踏まえ、民間給与との較差を埋めるため初任給をはじめ若年層に重点を置いた給料表の改正を行い平均1・1%引き上げるものとし、期末勤勉手当は0・1カ月分引き上げ、年間支給月数を4・5カ月分とするもの。  
また、第1号会計年度任用

特別職及び議会議員の期末手当の支給月数は0・1カ月引き上げ、3・2カ月分とするもの。  
なお、改正の実施時期は、職員の給料表については令和5年4月1日、期末勤勉手当については12月1日に遡<sup>さかのぼ</sup>り適用する。

職員の給料表については令和5年4月1日、期末勤勉手当については12月1日に遡<sup>さかのぼ</sup>り適用する。

審議結果…5件とも全員賛成 (可決)

◆安田町国民健康保険税条例の一部改正◆

内容

こども・子育て支援拡充の一環として、産前産後期間における国民健康保険税のうち所得割額及び均等割額について、産前産後の4カ月間、減免措置を行うもの。

審議結果…全員賛成 (可決)

◆安田町印鑑条例の一部改正◆

内容

「電子署名等に係る地方公共団体情報システム機構の認証業務に関する法律」の改正により、移動端末設備(スマートフォン等)に電子証明書の機能を搭載することが可能となったことから、印鑑登録証明書のコンビニ交付において、電子証明書を搭載したスマートフォン等を用いて、申請ができるよう条例の一部を改正するもの。

審議結果…全員賛成 (可決)

補正予算

3340万円 など  
総額6730万円追加

◆令和5年度町一般会計及び特別2会計(国保・簡水)補正予算◆

補正予算

補正後の予算総額  
33億5660万円

内容

本年度事業に係る追加、減額措置を行うもの。  
補正の主な内容は、

◎一般会計(第5号)

○職員の人件費の減額

458万円

追加

○一般被保険者高額療養費の

1470万円

総額5270万円追加

○社会資本整備総合交付金事業の配分実績等に伴う建設事業費の減額

2278万円

補正後の予算総額

5億2314万円

○商工振興費(地域商品券配布)の追加

1380万円

◎簡水会計(第1号)

○給与等の改定に伴う人件費

の追加

24万円

○生活バス路線運行維持費補助金の追加

848万円

○住民税非課税世帯等臨時特別給付金の追加

2977万円

総額24万円追加

○基金への積立金の追加

2億1684万円

補正後の予算総額



がんばるやすだ応援券

質疑

問（黒岩議員）

住民税非課税世帯等臨時特別給付金と、がんばるやすだ応援券配布事業のそれぞれの支給スケジュールは具体的に決まっているのか。

**答** 非課税世帯給付金は、

令和5年12月26日をめどに支給開始、がんばるやすだ応援券配布事業は、令和6年1月20日をめどに使用開始し、3月15日に終了する。

審議結果…3件とも全員賛成  
(可決)

**賛否表（令和5年12月定例会）**

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 ▲：除斥 一：議長

[illegible]

# 視察研修報告

## 日程

令和5年9月20日～22日

## 視察先

宮崎県総合農業試験場  
熊本県球磨村、熊本城  
福岡県朝倉市

## 参加者

佐竹正利議長 安並 功裕  
太田 賢三 内川 一則  
田之上健太 中島 瑞夫  
黒岩 円 小松 憲次  
(2名欠席)

町田議会事務局長

## ◆宮崎県総合農業試験場(9月20日)◆

マンゴー栽培の先進地である日南市の亜熱帯作物支援場で、先進施設、栽培技術、商品開発、販売方法等について説明を受けた。

宮崎県がピーマン、キュウリに代わる新しい作物として、昭和60年よりマンゴー

の栽培研究を始め、同年、農家8戸による組織的な加温栽培の幕が開いた。

生産農家も令和4年は259戸、生産量1258tとなり、日本全体の約3分の1の生産量を誇るまでになった。

マンゴーは、気候の温暖な海岸沿いの地域で主に栽培され、ブランド化された高級品や生産量の10～15%に当たるC級品等もジュース、ゼリー、焼き菓子など、さまざまな加工品として販売されている。

マンゴーハウス施設は、硬質フィルムガラス温室ハウスで、炭酸ガスや細やかな湿度コントロール、天敵



トロピカルドーム見学(宮崎県総合農業試験場)

を使った防除等により、栽培技術の向上が図られている。また、品質確保のため、生産量も10a当たり年1・8tをキープし、3～5本の枝に一つの果実しかつけ

ず、その一つ一つにネットをかけて成熟による自然落下で収穫されている。

こうしたきめ細かい栽培技術により、生果実はキロ3千円、加工果実はキロ千

円ほどで取引されているが、設備の維持管理費が高額であることで、利益率も2～3割しかないことから、生産者は高齢化とともに減少傾向になっている。

宮崎県ではマンゴーに続く作物として、ライチやバナナ、アボカドなどの亜熱帯果樹の栽培研究も行われている。

## ◆熊本県球磨村(9月21日)◆

令和2年7月豪雨災害の復興状況を視察した。  
災害状況の説明を防災管理官より受け、会議には球磨村議会議長、副議長も同席された。

球磨村は、熊本市から南へ約70kmの場所に位置し、村全体が山岳地帯で村の88%が森林であり、村を左岸、右岸で分断するように中央を一級河川球磨川が流れている。また、災害発生時の令和2年6月の人口は3510人であったが、現在の人口は2826人と豪雨災害の影響を受け、67



球磨川で説明を受ける（熊本県球磨村）

4人減少している。  
球磨村の豪雨災害は、令和2年7月3・4日にかけて梅雨前線が居座り、4日深夜より約8時間にわたり線状降水帯が連続的に形成され「1時間当たり100mm～120mm」の雨が降り続け球磨川が氾濫、多くの家屋が浸水や土石流被害を受け死者25人・建物全壊340件など村全体の31・5%

を占める大災害となった。なぜこのような甚大な災害に至ったのか、その原因は球磨村の地形にあり、上流域の人吉市と取り囲む山脈に降る雨は球磨川に集中して流れ込み、下流域に位置する球磨村を経由しないと海に放流されない地形となっている。そこに長時間にわたり猛烈な雨が降り続けたからであった。

災害対策本部の立ち上げ当初は、まさかここまでとは誰もが想像していなかったが、気象庁の連絡からにわかに緊張状態となってきた。想定を超えた雨とは「数メートル先が見えない。激しく打ち付ける雨で防災無線が聞こえない。ほとんどの住民が緊急事態に陥った後に命がけで避難した」の状態であった。また、末期的な状況下で対策本部が打ち合わせを行うために記録したホワイトボードが当時の状態で消されることなく残されていた。これは、この豪雨災害のことを忘れず



球磨村役場で説明を受ける（熊本県球磨村）

教訓とするために保管していると説明された。

終わりに管理官は「そもそも球磨村は安全な場所が乏しく、水害に脆弱な村であり、人が住めるところで

はない。今回の教訓を今後につなげていかなければならない」と締めくくられた。

会議の後、実際に水害のあった球磨川の防波堤を視察したが、その現場で我々



球磨川の氾濫により電線にひっかかったプロパンガス（熊本県球磨村）

が立っているその場所から  
管理官は遙か上方を見上  
げ「球磨川の水位はあそこ  
まで」と電柱の上を指した。  
この時ばかりはあぜんとし  
て言葉が出なかった。

住民アンケートで「もう  
ここには住まない」と決断  
せざるを得なかった理由が  
理解できた。そして、これ  
が実際に「想像を超えた」  
と言うことかと認識した。

#### ◆熊本城（9月22日）◆

国宝熊本城は、平成28年4月に熊本地震により被災し現在復旧工事中であり、その進捗状況などを視察した。

熊本城ボランティアガイドの案内で場内に入ったが地震の爪痕は7年たった今でも生々しく、難攻不落の名城と語り継がれているイメージは一変する程の衝撃的な光景であった。その状態は、滑落した石垣・ひび割れた壁・

たわんだ建屋など全体の被害総額は634億円に及んでいる。特に最も復旧に時間を要するのは石垣で、約千ある面のうち517面で被害が出ており、完全復旧するために、石にナンバリ



復旧工事中の熊本城（熊本県）

ングし、一つ一つを元の位置に再現し、組み上げる必要があり、これだけでも約30年を要するといわれている。

各種復旧工事は、熊本城復旧基本計画に沿って進められているが、現在で全体の2割ほどの進捗状況との

こと。復旧が終了した天守閣を内覧したが貴重な書物・備品等が展示され観光客を引き付けるに値する内容であった。

また、大型バスが数十台置ける駐車場付近には真新しい土産販売店が軒を連ねて配置されており、インバ

ウンドの外国人観光客の姿もあり、にぎわいを取り戻している。

### 視察研修まとめ

宮崎県のこれまでのマンゴー栽培定着への取り組み状況や、今後の生産安定化に向けた技術開発等を視察し、本町でのマンゴー栽培を定着させるためには、近代的な温室ハウスの確保や優遇施策等の行政支援、先進地生産者の生の声を聞くなどハード、ソフト両面からの細やかな取り組みが必要となっている。

また、球磨村・熊本城・朝倉市の被災・復興状態を見て、現在の地球環境では、球磨村や朝倉市のような豪雨災害も想定していなくてはならないと認識した。今後は、球磨村で学んだ『想像を超えた』豪雨災害が発生したときにいかにして住民の生命を守るか、執行部と議会で十分な議論を交わす必要がある。



宮崎県総合農業試験場

## 議会を傍聴してみませんか

議会は公開が原則です

皆さんお気軽においでください

\* 次回の定例会は、3月上旬にひらかれます。

議会のつぎ

10 月

- 13 日 第 61 回 四 国 地 区 町 村 議 会 議 長 会 研 修 会 (徳島県)  
20 日 四 国 8 の 字 ネット ワーク 整 備 促 進 四 国 東 南 部 連 盟 総 会 ・ 整 備 促 進 大 会 (芸西村)  
23 日 海 部 郡 ・ 安 芸 郡 議 長 連 合 会 徳 島 県 知 事 ・ 議 会 議 長 へ の 要 望 活 動 (徳島県)  
25 日 第 2 回 安 芸 広 域 市 町 村 圏 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 組 合 議 会 定 例 会 (奈半利町)  
26 日 トップ セミナー (高知市)  
30 日 四 国 8 の 字 ネット ワーク 整 備 促 進 四 国 東 南 部 連 盟 秋 期 要 望 (香川県)  
一般国道55号・阿南安芸自動車道 整 備 促 進 期 成 同 盟 会 秋 期 要 望 (香川県)  
11 月  
1 日 高 知 県 戦 没 者 追 悼 式 (高知市)  
2 日 主 要 地 方 道 安 田 東 洋 ・ 魚 梁 瀬 公 園 線 整 備 促 進 期 成 同 盟 会 要 望 活 動 (高知市)  
3 日 大 阪 高 知 県 人 会 結 成 総 会 (大 阪 府)  
4 日 第 1 回 全 国 森 林 鉄 道 サ ミ ャ ト ー ン 高 知 (田野町)  
10 日 第 75 回 関 東 高 知 県 人 大 懇 親 会 (東京都)  
14 日 町 戦 没 者 等 追 悼 式  
16 日 簡 易 水 道 事 業 の 地 方 公 営 企 業 法 適 用 に 係 る 勉 強 会  
17 日 産 業 厚 生 常 任 委 員 会  
19 日 安 田 町 社 会 福 祉 大 会

- 20 日 安 芸 郡 町 村 議 会 議 長 会 土 木 部 長 要 望 (高知市)  
21 日 総 務 教 育 常 任 委 員 会  
24 日 第 33 回 安 田 川 分 水 連 絡 協 議 会 (高知市)  
27 日 四 国 8 の 字 ネット ワーク 整 備 促 進 四 国 東 南 部 連 盟 秋 期 要 望 (東京都)  
28 日 海 部 郡 ・ 安 芸 郡 議 長 連 合 会 中 央 要 望 活 動 (東京都)  
29 日 県 選 出 国 会 議 員 と 町 村 議 会 議 長 と の 意 見 交 換 会 (東京都)  
29 日 第 67 回 町 村 議 会 議 長 全 国 大 会 (東京都)  
30 日 安 芸 郡 町 村 議 会 議 長 会 先 進 地 視 察 (東京都)

12 月

- 2 日 安 芸 市 新 庁 舎 落 成 記 念 式 典 (安芸市)  
第 30 回 寧 浦 全 国 色 紙 展 開 会 式 ・ 表 彰 式  
4 日 第 3 回 安 芸 広 域 市 町 村 圏 事 務 組 合 議 会 定 例 会 (安芸市)  
6 日 議 員 協 議 会  
8 日 議 会 運 営 委 員 会  
議 会 広 報 編 集 委 員 会  
20 日 第 5 回 中 芸 広 域 連 合 議 会 定 例 会  
22 日 第 3 回 安 芸 広 域 市 町 村 圏 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 組 合 議 会 定 例 会 (奈半利町)  
安 芸 郡 町 村 議 会 議 長 会 臨 時 総 会 (芸西村)  
1 月  
3 日 二 十 歳 を 祝 う 会  
5 日 議 員 協 議 会  
7 日 中 芸 広 域 連 合 消 防 出 初 式 (田野町) 火 鎮 祭

編集後記

安田町の皆さまにおかれましては議会が発行する『議会だより』をご愛読いただき誠にありがとうございます。

さて、本年の令和6年は十干十二支で、甲辰(きのえ・たつ)となります。十干の「甲」は優勢を示し直立する大木をイメージするものであり、十二支の「辰」は龍を指し自然の躍動と神秘性を表現し、古来より幸運や繁栄をもたらす象徴とされています。この十干十二支の組み合わせは、どれも60年に一度の周期で訪れ、

甲辰年は成功の芽が確実に成長し、その形を整えていくことを示唆しているといわれております。

どうか、本年が安田町の皆さまにとって成功と繁栄をもたらす年となることを心よりお祈りするとともに、編集委員会も皆さまにますます愛読いただける議会だよりとなるよう編集に努めてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(編集副委員長 黒岩)

議会広報発行人

議長 佐竹 正利

議会広報編集委員会

委員長 内川 一則  
副委員長 黒岩 円  
委員 鶴田 亀代志  
委員 安並 功裕  
委員 田之上 健太  
委員 中島 瑞夫



## 各常任委員会の所管事項調査

産業厚生・総務教育の両常任委員会は、このほど所管事項調査を行い、その結果を次のとおり議長に報告した。

### 産業厚生常任委員会

開催日 令和5年11月17日

#### 調査事項

①令和5年度経済建設課・町民生活課の主要事業の実施状況について

②遊休農地の現状について

③その他

#### 経過

経済建設課・町民生活課から資料に基づき説明を受け、現地調査を行い、協議の結果、次のとおりまとめを行った。

#### 調査結果

◎有害鳥獣対策について、近隣市町村で開催されている狩猟免許取得の講習会を狩猟者確保の観点からも、免許の取得しやすい環境をつくるため本町開催ができるよう、協議を図りたい。



産業厚生常任委員会

◎下島頭首工の保全対策について、

改修等に対応する財源確保により事業の進捗が図られている状況は理解しているが、農業用水路の改修保全など一体的に対策が図られる事業実施を望む。

◎遊休農地の実態状況及び耕作放棄に至るまでの経緯の原因分析を今後も引き続き調査研究を行う。

### 総務教育常任委員会

開催日 令和5年11月21日

#### 調査事項

①令和5年度総務課・地域創生課・教育委員会の主要事業執行状況について

②全国自治体の移住・定住の先進的な取り組み事例について

③その他

#### 経過

総務課、地域創生課、教育委員会から資料に基づき説明を受け、協議の結果、次のとおりまとめを行った。

#### 調査結果

◎ふるさと納税事業については、本町のファンづくり重点を置いて取り組んできている。10月からその取り扱いが厳格化されたところであるが、これまでの

取り組みを継続しつつ、より魅力発信できるよう期待するところである。

◎職員初動対応マニュアルに基づく対応訓練について、既存のマニュアルが実情と相違のため職員全体の訓練が未実施であるが、発災時からの職員の迅速な対応は最優先であるため、早急なマニュアルの見直しをすすめること。



総務教育常任委員会